

日本語教室

つながる、ひろがる、

外国人住民が日本語を学ぶために参加する日本語教室。埼玉県内には約150の日本語教室があり、主に地域のボランティアの人たちが公民館や市役所などで日本語を教えています。地域の日本語教室ではどのような取り組みが行われているのでしょうか？



心強いボランティアの存在

日本語教室に参加する外国人住民の多くは、言葉だけではなく日常生活にも不安を持っています。そこで、日本語を教えるときには、文法だけでなく、買い物や通院などの場面を想定した会話の練習をすることが多いです。

こうした中、教室によっては日本語だけでなく、文化や生活習慣、防災などについても学んでもらう取り組みをしているところもあります。

ボランティアの人たちは、子どもが学校で渡されたプリントと一緒に読んで「遠足」「お弁当」などの説明をしたりすることもあります。また、災害訓練と一緒に参加して地震に関する知識や避難方法について教えることもあります。さらに、浴衣の着付けを教えて一緒にお祭りに行ったりすることもあります。

日本の生活や制度に慣れない外国人住民にとってボランティアの人たちはとても心強い存在です。



ひろがる日本語教室の活動

親の再婚などの理由で来日した外国出身の子どもたちに対して、学習指導や進学支援を中心に行う日本語教室もあります。こうした教室では、学校の宿題を一緒にしたり、高校進学のしくみについて説明をしたりする活動が行われています。

また、地域に引っ越してきたばかりの人を対象としたウェルカムパーティーや、赤ちゃん連れのお母さんが集まる会などを開催し、みんなが自由に話をする場を提供する教室もあります。

日本語教室と言っても、その活動内容は多岐にわたってきています。

共に地域を担う住民として

日本語教室に参加する外国人住民の中には、支援してもらうだけではなく日本社会のために役に立ちたいと思っている人が多くいます。

そこで、教室に参加したことをきっかけに、地域のゴミ拾いなどの活動に外国人住民が参加する取り組みも行われており、参加した外国人住民からは、「自分も地域の一員として受け入れられた気がする」という声も聞かれます。

また、「母語で絵本を読んでもらう会」や「母国の料理を教えてもらう会」など、日本人が生徒になる活動も行われています。



日本語教室は日本語を教える場、学ぶ場であるとともに、地域に暮らす日本人と外国人住民との“出会いの場”“つながる場”ともなっています。家族以外の日本人と接点を持つことで日本の社会に関わっていきたいと考える外国人住民にとっても、日本語教室は大きな役割を果たしています。